

<環境子供アンケート 傾向分析>

* 回答総数 739人
 小学生低学年・・・204人
 高学年・・・223人
 中学生・・・292人

問1 あなたは、地球に優しい暮らしをするために、どんなことに気をつけていますか？
 また、これからどんなことがしたいですか？

回答・・・似通っているものを、項目別に分類し円グラフ（図1）にし、項目ごとの具体的な内容を棒グラフであらわした。

<その他>

協力する・仲良くする・エコ活動する 29人
 わからない・していない 8人
 手作り遊び・外遊びをする 7人
 大人を注意する 3人
 オール電化にする・科学で解決 3人
 環境のことを学習したい 2人
 ガス・ストーブの使用を減らす 1人

<電気>

使っていない電気を消す 288人
 テレビゲームを控える 33人
 コンセントを抜く 18人
 冷暖房を衣服や風で調節 11人

<自然保護>

植物を大事にする花に水をやる、植林、伐採をしない 47人
 木製品を買う・買わない 3人

<食>

食べ物を残さない 49人
 野菜などを育てる 6人

<車>

歩いたり自転車を使う 51人
 車にあまり乗らない 14人
 ハイブリット、低燃費車を使う 8人
 アイドリングをやめる 6人

<水>

節水 118人
 水を洗剤や油で汚さない 14人

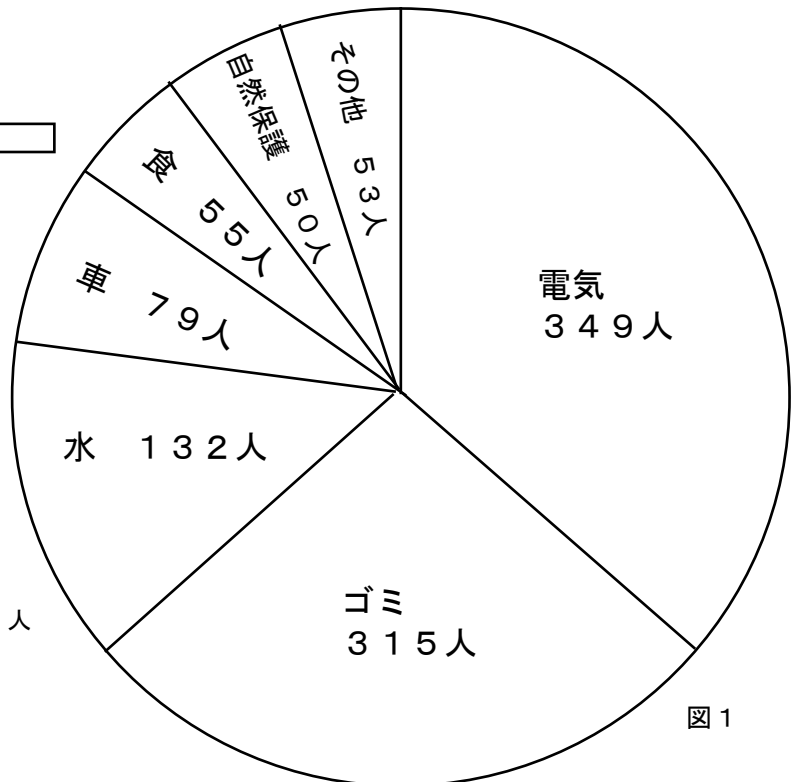


図1

<ゴミ>

リサイクル・分別をする 101人
 ポイ捨てをしない 92人
 減量・大事に使う・買わない 79人
 マイバックを持つ 67人
 裏紙を使う 25人
 マイカップ・マイ箸を持つ 11人

問2 地球に優しい暮らしをするには、大人達は何をすべきだと思いますか？

<その他>

- エコ活動をする 27人
- 木材・食料をの国産の購入 7人
- わからない 4人
- 募金する 1人

<ゴミ>

- タバコやゴミのポイ捨てをやめる 156人
- リサイクル・分別 49人
- マイバック・マイはし 48人
- ゴミの減量 46人
- 物を大事に・節約 40人
- 紙の節約・印刷物の減量 4人

<食>

- 自給する 27人
- 食材を残さずに使う 11人

<水>

- 節水 22人
- 水を汚さない 9人

<学習>

- 大人が学習し、意識改革する 33人
- 子供に身につける・学習させる 14人

<社会政策>

- 環境に負荷をかけるものを規制 (工場/ビル/自動車/化学物質/自販機など) 26人
- 大量生産・大量消費しない 13人
- 科学技術・原子力で解決 12人
- 自然エネルギーを利用 9人
- けんかをやめて、戦争をしない 4人
- 環境に良いことにお金を使う 2人
- 国民行事でゴミの日を作る 1人

<自然保護>

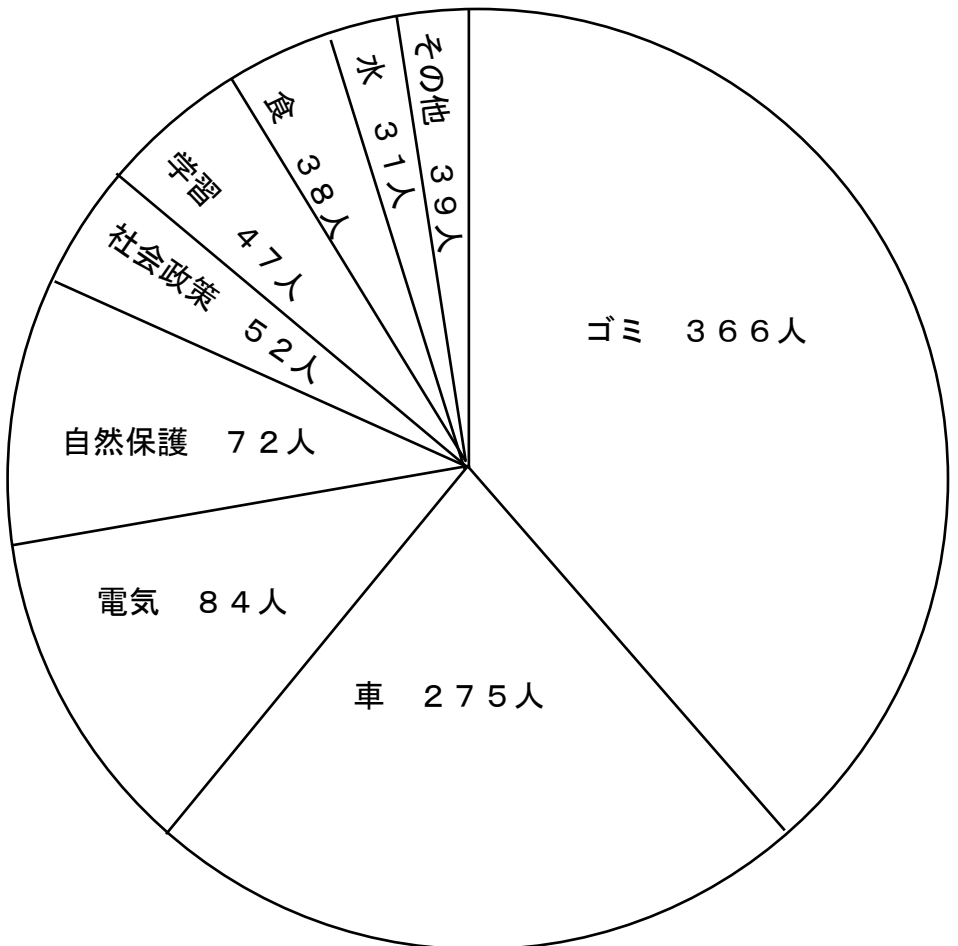
- 植林・伐採しない・自然を大事に 62人
- 木製品を作り大事にする 10人

<電気>

- 節電 67人
- テレビを消す 12人
- 冷暖房を衣類で調節 5人

<車>

- 車に乗るのを控える 134人
- 歩いたり自転車を使う 91人
- アイドリングをやめる 34人
- ハイブリット、水素ガス、低燃費の車に乗る 14人
- バスや電車の公共の乗り物 11人



木曾町環境推進会議 子供アンケート 分析

問1 あなたは地球に優しい暮らしをするために、どんなことに気をつけていますか？
また、これからどんなことがしたいですか？

分析 円グラフが示すように、圧倒的に、〔電気、ゴミ、水〕について答える子が多い。社会的に定着したキャッチフレーズ「電気を大切に」「節水」「リサイクル」「ポイ捨て禁止」「マイバック」の言葉を使い、子供達が自分で取り組めることを述べていた。また、低学年では、普段、親や先生に注意されていること、「残さず食べる」「電気をつけっぱなしにしない」「水を出しっぱなしにしない」「ゴミはゴミ箱に」等を述べる子が多かった。大人が、子供に対し、繰り返し啓発する成果は子供達の意識に根づいている。
その一方で、答えに多様性がない。子供が出来るということが限られているのか、自発的に、環境問題について考え自ら行動に移すというレベルではないようだ。

問2 地球に優しい暮らしをするために、大人たちは何をすべきだと思いますか？

分析 〔ゴミ〕の問題をあげる子が、小学生、中学生共に圧倒的に多かった。美化運動でのゴミ拾いの体験や、日常、道端で目にするポイ捨てゴミ（特にタバコ）が、大人への非難となっている。
〔車〕の利用を減らすことを子供は積極的に考えていることが、大人のアンケートで、「車の利用を減らすことは難しい」と考える多勢の大人の意見と、対照的である。
中学生になると冷やかに厳しく大人を批判する。一部の意見であるが、大人として、そしてこのような活動をしている委員として真摯に受け止める必要がある。（以下抜粋）
「このアンケートが無駄」「中学校としてもっと裏紙を使え」「くだらないプリントを少なくすれば？」「マイバックを提供しすぎてCO₂が増えている。」「何をすべきか考えても、どうせ大人なんか何もやらないしやれないから意味なし」「何をすればいいかは自分達で考えてほしい。なんでも子供に聞けばいいってもんじゃない」「大人は言うだけで何もやっていない。地球温暖化が進んでいるなら、未来の私達のためにどうかしろって感じ」「温暖化が危険という話と大丈夫という話があって、どれが本当か教えてほしい。」「余計な建物を作らず、余計なお金を使わない。」

<総合分析>

子供の環境問題の意識を高めるには、身近な大人（家庭・学校）の具体的な行動が大事であることがわかる。大人、子供共に、自ら学び、判断し、行動に移せるような、継続的な環境教育の必要を感じる。

木曾という森林に囲まれた環境にしながら、自然保護という目線で意見を言う子が、少ない。木曾は長野県で間伐重点地域に指定されているのに、木に関して、「植える・伐らない」という意見ばかりで、「間伐・手入れ」という言葉がなく、木製品を環境のために買うこと買わない子がいる。間伐材の利用と外国の原生林の利用では環境負荷は対照的であるので、正しい知識が必要である。今後、バイオマスを始めるためにも「伐採＝環境破壊」という誤解を解き、森のあるべき姿を学習する必要がある。世界を見据えて、木曾の自然環境の足元から「森林保護、生物の多様性、食」など自然と共存する循環のライフスタイルを体験学習できるとよい。